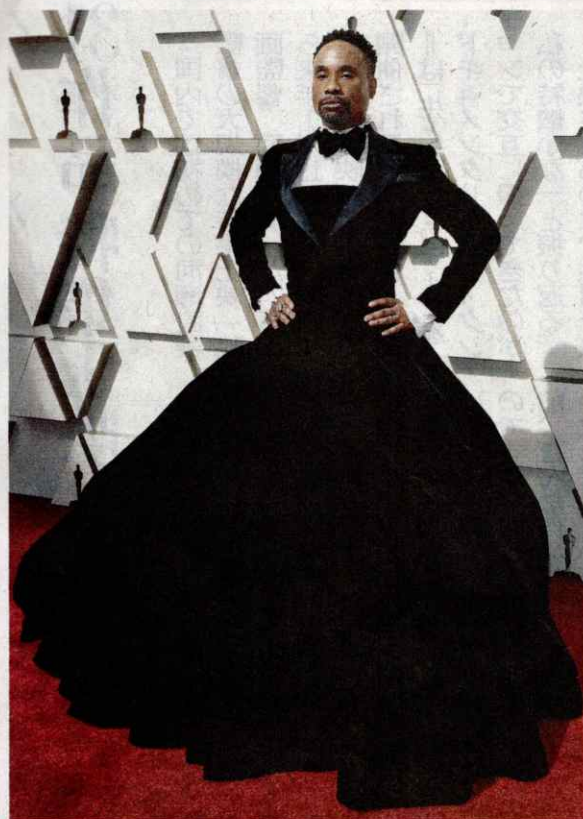


Style アイコン

者の黒人男性、といえはお分かりになる方もいるのでは。ドレスを選んだ理由について、ウ

今年のスタイルアイコンを二人挙げるとすればビリー・ポーター(50)でしょうか。エミー賞主演男優賞を受賞したアメリカの俳優として作家、そして「レッドカーペットスター」として支持を集めています。

【ビリー・ポーター】



ロイター

「らしさ」退け 政治的アートに

オーグ」のインタビューに次のように話しています。「私のゴールは、登場する戦すること」

確かに、レッドカーペットの上で、男性はタキシードの拘束にとらわれたままで。ジェンダーは固定的ではなく揺れ動くという意味の「ジェンダー・フルイド」が声高にうたわれているの

に、「男らしさ」の暗黙の強要が残っているのは、疑問とされても不思議ではありません。

さらに、ポーターは6月のトニー賞授賞式で、ピンクの「子宮ドレス」姿を披露しました。彼は、ドラァグクイーン(女性のように着飾った男性)向けの靴を作る工場が舞台のミュージカル「キンキーブーツ」で、2013年のトニー賞ミュージカル主演男優賞を受賞。ミュージカルで使ったカーテンをリメイクし、子宮の刺しゅうを施したドレスで、中絶禁止に反対しつつ女性の権利擁護という政治的メッセージを込めたのです。

彼は「キンキーブーツ」

でドラァグクイーン役を演じたことで、衣装を通して世に政治的メッセージを投げかける勇気を得たのとこと。ユーモラスながら堂々たるドレス姿には、社会が押し付ける「らしさ」をねのけて本来の姿を現した人のすがすがしさと力があります。

「Go Big or Go Home(ゴー・ビッグ・オア・ゴー・ホーム)」。何かをやるなら全エネルギーをこめて徹底的にやれ、でなければおとなしくしていなさい、という趣旨の言葉です。同じ時間を生きるならゴー・ビッグに行こう。巨大なレッドカーペット上のスカートを励まされます。(エッセイスト 中野香織)